

現代日本論基礎講読「研究法入門」(東北大学文学部 2012年度 4セメスタ)

第1講 インTRODクシヨN(10/2)

作成：田中重人 (東北大学文学部 准教授)

1 『講義概要』 記載情報

- ◆ 到達目標: 知的生産に必要な資料収集、読解、アイデア創出、論理的思考、批判、討論の技術を身につける。
- ◆ 授業内容・目的・方法: 「研究」とは、答えるに値する問いを見つけ、その問いに対して根拠のはっきりとした答えを導くプロセスです。この授業では、各自の問題関心にしがたって、問いを設定し、それについて調べて答えを出すプロセスを実際に体験することにより、研究の方法を身につけることをめざします。

授業予定:

- 10月 書籍・雑誌・マスメディアなどからの資料収集と読解。
- 11月 情報の整理とアイデアの創出。
- 12-1月 アイデアをかたちにする(レポート作成、発表、討論)。
- ◇ 教科書・参考書: なし(授業での課題・宿題をとおして、各自で既存の研究成果を探して読むことになります)
- ◇ 成績評価方法: 授業中の課題と宿題(50%)、学期末に提出するレポートと口頭試問(50%: 主要な評価項目は、意味のある問いをたてて根拠のある答えを導いているかと、その答えに対する批判的な姿勢を持っているか)
- ◇ 備考: 授業時間外に、個別面談やグループ活動をおこなうことがあります(その週は休講とし、受講者の都合にあわせて日時を設定)。

2 この授業の目標

- 知的生産の技術
- 卒業論文を書くまでのプロセス
- 意味のある問いと根拠のある答え
- メディア、他人、自分自身の利用方法
- 批判することの重要性

3 授業予定 (おおよその計画)

- (1) イントロダクション (10/2)
- (2) 自己紹介と卒論紹介 (10/9,16)
- (3) 書店で本を探す (10/23 前後)
- (4) 本の紹介と議論 (10/30, 11/6)
- (5) 問いの設定について面談 (個人またはグループ別: 11/12- の週)
- (6) 情報の整理とアイデアの創出 (11/20)
- (7) 他者との対話 (11/27)
- (8) 図書館利用実習 (12月上旬)
- (9) レポート執筆について面談 (個人またはグループ別: 12月下旬)
- (10) レポート執筆 / グループで連絡をとって報告打ち合わせ (冬休み)
- (11) グループで研究紹介と質疑応答 (1/8,15)
- (12) 口頭試問 (個人別またはグループ別: 1月下旬)

4 注意事項

- 授業中の課題遂行のため、情報機器の持ち込みを推奨
- 課題・宿題・レポートは、コメントをつけて返却します (内容によっては再提出を求めます)
- 授業資料用の宿題については、早めに来て、研究室でコピーしてください
- 教員からの連絡は、授業中の指示や管理等前の掲示板のほか、個人ブログ <http://b.tsigeto.info/school> (RSS フィード利用可) に出る場合があります
- オフィス・アワーは定めていません。教員への相談は、適当な時間に予約をとってください

5 受講フォーム記入

- 自分の問題関心
- 日頃使っている知的生産やスケジュール管理の方法
- ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況
- 週間スケジュール

6 レポートのフォーマット

- 問い
 - その背後にある大きな問い
 - 問いの学問的背景
 - 問いの社会的意義
- 答え
 - 必要な予備知識と前提
 - 答えの根拠
 - ありうる批判とそれをクリアする方法
- 問いを発展させる可能性
- 文献

7 文献を読むときにメモすべきこと

「要するに何が書いてあるか」を意識しながら読むことは重要であるが、ふつうはメモしなくても記憶に残る

- わからないことはなにか
- おかしい点はどこか
- 内容を発展させる方向性

付箋を貼る、目次にメモをする、写真にとる、など。

8 今日の課題

卒業論文または修士論文から自分の興味に合ったものを一つ選ぶ

- 配布した一覧表を参考にすること
- 日本語教育学研究室の卒業論文・修士論文は貸出禁止 (閲覧・コピーは可)。また、整理中のため、探しにくいので注意

9 宿題

自分の選択した卒業論文／修士論文 (日本語教育学または自分の所属専修のもの) について、内容をまとめてくる

- 自分の関心について
- なぜその論文に興味をもったか
- 論文の「問い」はなにか、それにどのような「答え」を出しているか、その根拠は何か
- 疑問や批判など
- 内容を発展させる方向性

発表は2回にわたって行う予定であるが、資料は全員作ってくること。

10 講師連絡先

田中重人 (東北大学文学部 日本語教育学研究室)

〒: 980-8576 仙台市青葉区川内 27-1 文学部・法学部合同研究棟 2F

Office: <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/officej.html>

E-mail: tanakas2009@sal.tohoku.ac.jp

Homepage: <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/welcomej.html>

Blog: <http://b.tsigeto.info>

年 月 日

現代日本論基礎講読 (田中重人) 受講登録フォーム

氏名 (よみがな):

学年:

学籍番号:

所属 (文学部日本語教育以外の場合):

興味のあること (非学術的な話題も可):

日頃使っている知的生産やスケジュール管理の方法:

ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況:

週間スケジュール (ダメなところに ×):

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					

現代日本論基礎講読「研究法入門」(東北大学 2012年度)

第2講 卒業論文・修士論文について発表 (10/16)

作成：田中重人 (准教授)

1 「議論」のふたつのモード

- 結論を出すための議論
- アイディアを出すための議論

今日は後者のモードで

2 各自報告と議論

5分以内で内容を説明。その後自由に討論。

3 次回予定

前半は、通常通り授業。後半は、書店(東北大学大学生協文系書籍店)で本を探す実習をおこないます。どんな本を読みたいか、考えておくこと。

当日の流れ:

[8:50] 通常の教室で授業

[9:50] 文系書籍店に移動 好きな本を各自探す

[10:20] 授業終了

次回授業時に、次のものを持ってくること

- 書誌情報(次回授業で取り上げます)のメモ
- できれば現物入手(買うか図書館で借りる)

現代日本論基礎講読「研究法入門」(東北大学文学部 2012年度 4セメスタ)

第3講 書店で本を探す (10/23)

作成：田中重人 (准教授)

1 日本語教育学専修の卒業論文について補足

1.1 テーマ

過去の卒業論文の研究テーマは様々。日本語の教育に関するものは意外にすくない。多いのは日本語、日本語学習環境 (ボランティアや年少者の問題を含む)、ひろく日本社会に関するもの (ファッションから家族問題まで)。

1.2 方法論

質問紙調査、インタビュー、メディア分析 (日本語教科書を含む) が多い。そのほかに2次データ分析 (社会調査データやコーパスの2次利用)、実験、参与観察、理論研究が少数。

1.3 卒論執筆のスケジュール

例年の卒業論文関連行事は次のような内容 (<http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/gakubu/sotsuron.html>)

4-5月: 構想発表会

6月: 中間発表会 (第1回)

7月: 進捗状況の報告会 (4年生と教員の個別面談; 年によって開催)

10月: 題目提出、中間発表会 (第2回)

11月: ドラフト (草稿) 提出

1月初旬: 卒業論文提出

1月末-2月: 論文発表会、口頭試問

2 本のみつけかた

現在の学問の分野は「○○学」「○○論」といった専門分野に非常に細かくわかれている。自分の興味と学問の体系を結びつけて、どの研究分野でどのような研究がおこなわれているかを把握していくとよい。

本を探すにあたっては、その研究分野の基礎知識から身につけていくこともできるし、自分の興味のある具体的な問題に直接取り組むこともできる。

研究に関する本は、研究者向けに書かれたものから、一般の人を想定読者層とするものまで、さまざまである。最初のうちは、研究者向けの、いわゆる「学術書」よりは、基礎的なことを幅広く扱った入門書・教科書・新書などを読むのがよい。

避けたほうがよいもの: 論文集、資料集、事典、講演録

3 書誌情報

文献の同定に必要な情報を「書誌情報」(bibliographic information) という。本の場合、基本的な書誌情報はつぎの4つ。

- 著者 (あるいは編者・訳者など)
- 出版年
- 標題
- 出版社

状況によって、これに「版」や「シリーズ名」「標準番号」などが加わることもある。

日本で出版された本の場合、いちばん最後 (広告をのぞく) に「奥付」というページがあって、そこに書誌情報が載っていることが多い。海外での出版の場合は、たいていは、いちばん前 (タイトルページの裏面) に同様の情報がある。

4 書店実習

東北大学大学生協文系書籍店で本を探す実習

[9:50] 文系書籍店に移動 → 好きな本を各自探す

[10:20] 授業終了

まず、店内の全体を回って、どのような配置になっているかを把握すること (おおむね、分野別の本が左側、新書や文庫が右側に配置されており、雑誌のコーナーが真ん中にある)。

自分の興味のある本を適当にさがす。手に取って、立ち読みしてよい。よさそうな本については、奥付を見て書誌情報を控える。

- 内容の見当を短時間でつけるには、どう読めばよいか? → 目次、前書き、あとがき、索引、参考文献の活用

静かに、節度を守って探索すること

5 次回予定

つぎのものを持ってくること

- 自分が興味をもった本の書誌情報のメモ
- できれば現物入手 (買うか図書館で借りる)
- 現物入手できた場合、その本の目次部分と、内容についての簡単な (A4用紙1枚程度) の要約

今日の実習は20分間しかないので、各自で空き時間に探しておくこと。

なお、東北大学附属図書館の所蔵は、つぎのURLで検索できる。

[フルブラウザ用] <http://www.library.tohoku.ac.jp/opac/>

[モバイル機器用] <http://www.library.tohoku.ac.jp/iecats/> (停止中?)

ただし、所蔵場所によっては、すぐには入手できないこともある。

第4講 本を読む (10/30)

作成：田中重人 (准教授)

1 本を読む目的

- 理解する
- 記憶にのこす
- 記録をのこす

2 入門書から理解すべきこと

- 概念・用語
- 理論的な考えかた
- 実証の方法
- 研究史・学派・人名

3 記憶と記録の方法

- 線をひく、付箋をはる
- メモをとる
- 具体例や反論を考えながら読む
- 他人に説明する、書評を書く

4 書誌情報の記録と探索

- 入手した文献や興味のある文献の情報管理 (コンピュータを使う)
- 実物やコピーの管理
- 借りた本の情報をどうやってのこすか?
- 「つぎに読む」「いつか読む」文献の情報 → 芋づる式、キーワード検索

5 今後の課題

来週は、ペアまたはグループで、各自が入手した文献について互いに説明する。A4用紙1-2枚程度の資料と、本の現物をもってくること。資料には、つぎの点を盛り込むこと：

- 本の概要
- 自分が特に興味を持った部分
- 反論、疑問、あるいは自分の興味にしたがって発展させる可能性

再来週は、個別面談をおこないます。レポートで何をとりあげたいかを考えておくこと。

現代日本論基礎講読「研究法入門」(東北大学文学部 2012 年度 4 セメスタ)

第5講 情報の整理とアイデアの創出 (11/20)

作成：田中重人 (准教授)

[テーマ] 自分のレポートについてマインドマップ作成

1 情報の蓄積と整理の方法

- 本を読む習慣をつけること
- 文献を読むときのメモ → 下線を引く、付箋を貼る、目次にメモ、コピーや写真を撮るなど
- 情報の整理 → ノートやカードの蓄積、デジタル技術の活用
- 書誌情報と現物の保管 → 文献整理ソフトの利用、本棚やコピー収納場所の確保
- 文献探索の方法 → 日本語教育学のページ <http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/student/litsurv.html> や図書館の冊子 <http://www.library.tohoku.ac.jp/mylibrary/tutorial/> を参照

2 マインドマップ

「ミニマインドマップ」(別紙参照)をまず書いてみる。何枚か書いてみて、それを集積して「フルマインドマップ」を書く。

- アイデアの洗い出し
- 情報の整理
- 足りない情報や課題の整理 → 今後の情報収集

大きな紙と色ペンを用意するとよい(月刊ビジネスアスキー編集部, 2010)。

3 類似の手法

- マインドマップと同様のことは、PC上でもできる
- カードの利用
- 問いと答えのリスト
- 文章の構成をメモにする

4 宿題

自分がレポートで取り上げる内容について、現段階でのマインドマップを完成させる。次回の授業時に持ってくること。

5 文献

- 月刊ビジネスアスキー編集部 (2010) 『本当に頭がよくなるマインドマップ “かき方” 超入門』 アスキー・メディアワークス.
- 日経 BP 社 (2010) 『実践ノート&書類術』(日経ビジネス Associe スキルアップシリーズ) 日経 BP 社.

第6講 他人との対話 (11/27)

作成：田中重人 (准教授)

[今回の課題] 各自が作成したマインドマップに基づいて、ペアで意見交換

1 ペア活動と来週以降の予定

今回以降は、問題関心の似た人同士でペアを組んで活動する。

来週は面談。定時の授業はなし。各ペアの都合に応じて日時を設定。

再来週あたりに図書館実習を入れる予定 (交渉中)

12月後半に、再度ペアでの面接。

冬休み中に、レポートを完成させる

1/8, 15 はレポートについての発表会。各ペアで、相手の レポートについて説明、そのあと質疑応答。レポートそのもののほか、追加の資料を配布してよい。

1/22 は口頭試問。ペアごとに時間を決めて行う。

2 レポート

口頭試問 (1/22) の際に提出。ただし、その後 2/1 までに改訂版を出してもよい。

A4用紙で提出。箇条書きや表形式のような簡単な形式でよい (きちんとした文章にする必要はない)。内容は初回授業資料を参照。

「問い」と「答え」は簡潔に書くこと。問いを理解するのに必要な予備知識などの解説は、「答え」の「必要な予備知識と前提」のところに書く。

成績評価では次の3点が重要：

- (1) 意味のある問いをたてているか
- (2) 根拠のある答えを導いているか
- (3) その答えに対する批判的な姿勢を持っているか

3 対話からえられるもの

- 説明する - 説明を受けて理解する (双方向的に)
- アイディア・感想・情報の交換
- 批判と応答
- 文章の添削
- 文脈の共通理解
- コミュニケーション能力

4 文献一覧の出典表示

レポート末尾の文献一覧には、つぎのような感じで情報をならべる。

文献一覧の例

藤原千沙, 2005, 「ひとり親の就業と階層性」『社会政策学会誌』13: 161-75.

岩田正美, 2005, 「政策と貧困」岩田正美・西澤晃彦編『貧困と社会的排除』ミネルヴァ書房, 15-41.

厚生省, 1999, 『人口動態社会経済面調査報告 平成9年度』厚生統計協会.

日本社会学会, 2009, 「社会学評論スタイルガイド 第2版」(<http://www.gakkai.ne.jp/jss/bulletin/guide.php>)

大村敦志, 2010, 『家族法』(第3版) 有斐閣.

レポート文中では、藤原(2005)あるいは(厚生省 1999: 63)のように出典を書く。くわしくは日本社会学会(2009)を参照。

現代日本論基礎講読「研究法入門」(東北大学文学部 2012年度 4セメスタ)

第7講 図書館の利用 (12/11)

作成：田中重人 (准教授)

1 今回の課題

8:50 附属図書館ゲート前に集合

図書館職員の案内で2号館(雑誌)、経済統計コーナー(官公庁出版物など)、書庫を見学。その後書庫で実習。

[課題] 自分の興味のある本を1冊以上探す。探した本について、カウンターで借り出しの手続き

- 図書館内の資料所在と配列を把握する
- 書庫内の本の分類はどのようになっているか?
- 分類記号・請求記号の仕組みを理解する
- 静かに、節度を守って探索すること

2 今後の予定

来週は、再度ペアでの面接。各ペアで時間を決めて予約すること。

その後は、1/8, 15に発表会。内容は、前回資料を参照。冬休み中に、各ペアで打ち合わせしておくこと。

3 注意事項

東北大学附属図書館では、学部生が本館書庫を利用するには、「書庫利用ガイダンス」を受ける必要がある。

4 文献

- 東北大学附属図書館 (2012) 『「レポート力」アップのための情報探索入門』 <http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/supp/?cat_id=3>